紙芝居

はだしのゲン

第一巻

①

中沢啓治　作・絵

ゲン

「わしは中岡元じゃ！
元気のゲンじゃ。
後ろにおるのはわしの家族じゃ。
お父ちゃんの大吉、
お母ちゃんの君江、
浩二あんちゃん、
英子ねえちゃん、
昭あんちゃん、
そして進次じゃ。
よう覚えておいてくれや。
よろしゅうたのむわい」

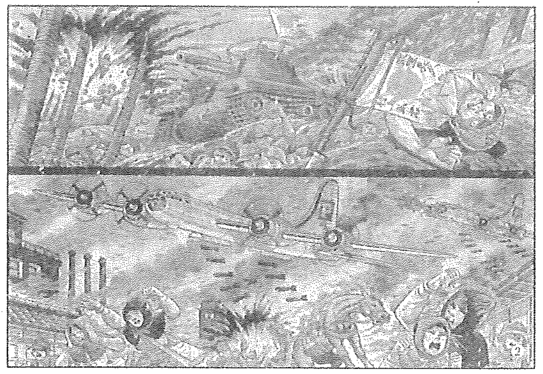
……ぬく……

〔演出ノート〕
元気よく、明るく

紙芝居
はだしのゲン　第一巻
1991年４月発行　（16場面）

発行者　吉 元 尊 則
発行所　株式会社　汐　文　社
東京都文京区本郷1-26-10
電話03（3815）8421

印刷・製版　㈱飛来社



②

一九四五年四月。日本はアメリカ、イギリス、中国など、多くの国を相手に戦争をしていました。

中国大陸や南の島々では、玉砕（ぎょくさい）といって日本の兵隊たちが全滅し、東京、横浜、名古屋、大阪など、多くの都市にはB29が爆弾の雨を降らせました。

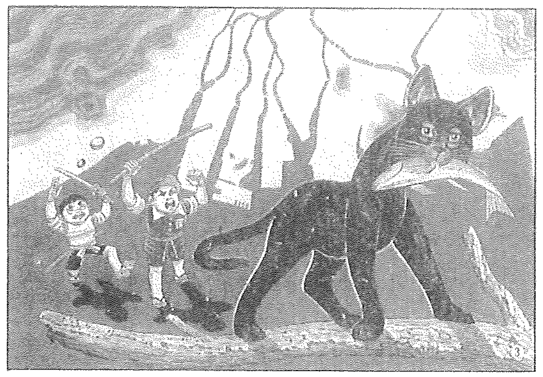
「苦しい〜」

「痛いよ〜」

「熱いよ〜」

多くの人々がもがき苦しんで死んでいきました。

……ぬく……



③

その太平洋戦争が終わる少し前の、ここは広島市。七つの川が流れ、緑がいっぱいの美しい街でした。

中岡元は、この街で生まれ育った、小学校の二年生です。

戦争で、食べる物も満足に手に入らなくなりました。「腹へったー」がゲンと弟の進次の合言葉です。大切な食べ物を猫になんか横どりされてはたまりません。

ゲン　「こらー。その魚おいてけ〜」　大きな声で

進次　「そうじゃ、わしらに食わせ〜」

……ぬく……

④

そんなゲンと進次をお父さんの大吉は、麦畑の手入れによくつれていきました。

大吉

「ゲン、進次。麦はのう、寒い冬に芽をだして、何回も何回も踏まれるんじゃ。踏まれた麦は、霜や風雪にたえて大地にがっしりと根をはり、まっすぐに伸びて豊かな穂をみのらせるんじゃ。おまえらもどんなに苦しくても、麦のようになれ……」

ゆっくりと力強く

何回も聞かされた、お父さんの口ぐせです。でも、ゲンと進次はうわの空。二人の頭の中には食べることしかありません。

ゲン

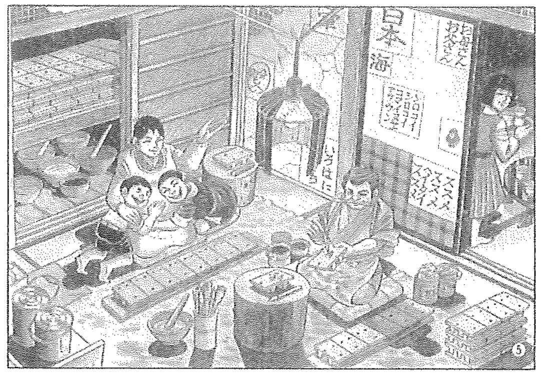
「エヘヘヘ。はようこの麦をパンにして食べたいのう……」

おどけた調子で

進次

「わしゃ〝ウロン〟がええよ」

……ぬく……



⑤

ゲンのお父さんは、下駄の塗装（とそう）や絵付けをする仕事をしています。

そして、お母さんのお腹の中には、赤ちゃんがいて、もうすぐ生まれるのです。

ゲン　「あっ、またうごいた」

進次　「ガハハハ、うごいとる、うごいとる。元気がええのう。お母ちゃん、絶対に男の子を産めよ」（感情を込めて）

末っ子の進次は、生まれる赤ん坊を自分の子分にしてあそびたくて、うずうずしているのです。

進次　「お母ちゃん、絶対に男の子を産めよ」（力強くはっきりと）

といいつづけます。

君江　「進次、生まれてみないと男か女かはわからんのよ」

お母さんは困った顔をしながらも、どこかうれしそうです。

……ぬく……